

静岡県発達障害児者家族等支援事業 キックオフ研修

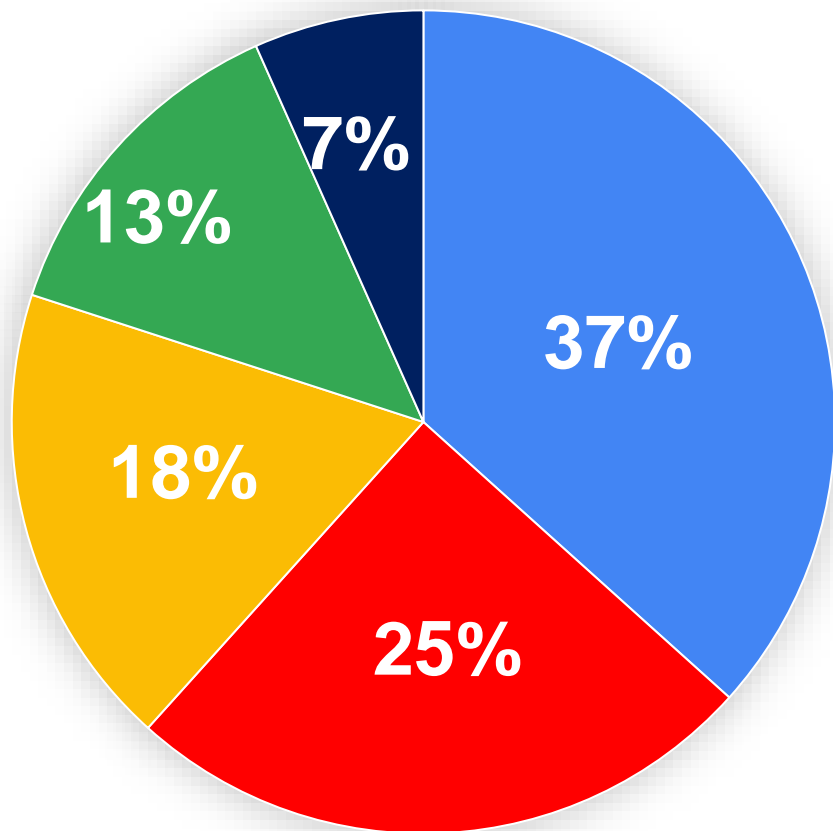
アンケート

集計結果

(2 0 2 2 . 1 . 2 2 ~ 1 . 3 1 期 間 中)

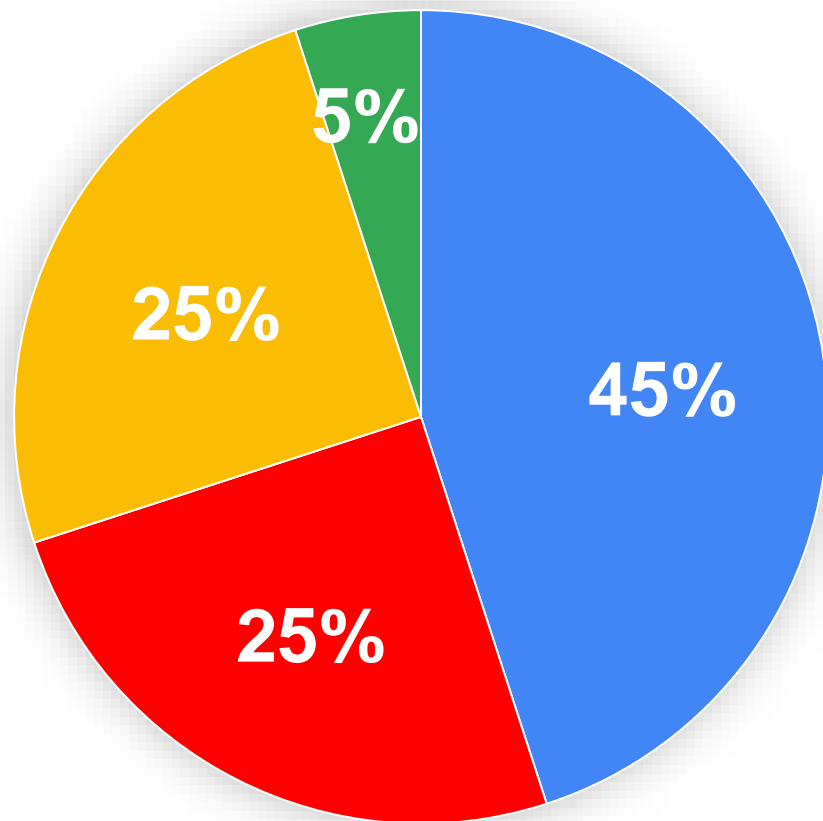
静岡県中西部
発達障害者支援センターCOCO

参加者状況



- 当事者・家族
- 福祉機関
- 教育機関
- 行政機関
- その他

参加者の地域



- 静岡県東部
- 静岡県中部
- 静岡県西部
- 静岡県以外

ペアレントメンターを活用した家族支援の充実や その課題についての意見（抜粋）

1 / 3

- ・ペアレントメンター活動の普及が進むとよい
- ・親の会との重層的な活動と各市町との細かな連携が必要
- ・地域にペアレントメンターと繋がる情報が無い
- ・ペアレントメンターの活動を展開するという視点で考えたい
- ・今の時代のニーズに合った保護者の会がいるのだろうと思う
- ・過去開催したが、共働きの方が多く参加者集まらなかった
- ・国や県から助成金がなければ浸透していかないと思う
- ・親に負担のかからないシステムを導入してほしい
- ・全国的にペアレントメンターの支援体制には偏りがある
- ・支援を受けたくても身近に受けられる環境や情報がない
- ・自分の住む自治体にはなく、その代わりにTwitterだった
- ・ペアレントメンターの活躍・活動は重要になると思った
- ・グループ相談は支援者も入って話す方がいい
- ・家族の思いを聞いてもらえる仕組みづくりをお願いしたい
- ・ペアレントメンター＝専門家とってしまうことに気づいた
- ・保護者の居心地よい居場所づくりが大切
- ・ペアレントメンターの人選が大切で難しいと思った

ペアレントメンターを活用した家族支援の充実や その課題についての意見（抜粋）

2 / 3

- ・ 放課後デイサービス等が充実し親の会に入らない人が増え、保護者同士の関わりが希薄になり孤立していかないか心配
- ・ 自分の実践の反省と今からの力になる導きを頂いた
- ・ 私も障害児の親として、時々相談をされることがある
- ・ ペアレンタルメンターがいれば、保護者と教員の相互理解や支援が促進されると思った
- ・ 就学期のペアレントメンター活用ができるの良い
- ・ 就労している母も多くなり、ボランティアだけでは活動が困難と思った
- ・ 行政の福祉システムや謝金を用意することも大切と思った
- ・ 事業推進にあたり、市町の発達支援事業の充実度を調べて欲しいと思った
- ・ 0歳から成人まで途切れのない支援体制を整えるべき
- ・ 小規模自治体は近隣市町と協力できる制度設計が必要
- ・ 資質や人材の育成にハードルの高さを感じた
- ・ 実際に悩まれて経験をした方の話は心の支えになる
- ・ 人材発掘・育成は連携を図りながら進める必要性を感じた

- ・大阪では、ペアレントメンターになる講演会形式しかないようで、鳥取の複数のペアレントメンターの話を一度に聞ける取り組みが良いと思った
- ・障害児の親となれば、藁でもすがる思いで先輩の親の経験を聞きたいと思う
- ・行政がリテラシーを提示したほうがトラブルも減ると思った
- ・障害者の親だから支援を受けて当たり前という考えをいつの間にかしてしまっている事に気づかされた
- ・ペアレントメンターさんのケア大切にしてほしいと思った
- ・ペアレントメンターが学校や制度や子どもについて学ぶ必要がある
- ・ペアレントメンターという言葉は初めて聞いた
- ・ペアレントメンターの体験談を聞く機会があると、自身の問題解決に参考になると思った
- ・保護者自身が障害を抱えていたり、児童に合わせた対応が困難だったりするケースが多く、保護者支援の場の情報を知りたいです。
- ・県が作成したガイドラインを基に自分たちができることを模索していきたいと思った

発達障害のある方の居場所を展開していくための意見 (抜粋)

1 / 4

- ・発達障害が社会に浸透すればいいと思った
- ・場所があっても、そこでの人間関係にストレスを感じるので難しいと思った
- ・放課後デイサービスの機能と、障害児の放課後の預かりを分けて考えていく必要があると考えた。まずは校内での居場所の確保が必要と思う
- ・場所、継続的に成長を見守ってくれる市の担当者、団体のスタッフ、自分以外の保護者が必要だと考えた
- ・知的を伴わないタイプの居場所が少ないので困っている
- ・長女が「赤ちゃん扱いされる」と放課後デイの利用も嫌がってやめた
- ・幼児から人権教育を充実し、すべての保護者の知識や認識も変えていくことが必要。当事者や関係者だけでは展開は限られてしまうと考えた
- ・高等部卒業した後の日中一時支援事業所や、外出支援ヘルパーなどが増えて欲しい
- ・当事者ニーズを共有したり、届けたりする役割が必要、社会教育の分野になるのかもしれないと考えた
- ・関係機関での共通理解、共通認識が必要と考えた
- ・オンラインの居場所を作ってあげたい人がいる

発達障害のある方の居場所を展開していくための意見 (抜粋)

2/4

- ・居場所の参加は本人希望だけなのか、保護者希望で本人を連れて行く人もいいのか知りたい
- ・福祉だけでなく義務教育以降の居場所の展開がとても大切な社会の環境づくりになると思った
- ・地域に安心して過ごせる居場所をすすめて欲しい
- ・異年齢・地域を超えて好きなことに参加できる場所作りは、地域の福祉業種だけでなく、家族丸ごとそしていろいろな業種（地域内の商店街や会社など専門家以外の方々も巻き込んで）連携することでより魅力的なものとして実践できるのではないかと可能性を感じた
- ・本人自身の移動が難しく、また情報を得ることが難しい
- ・本人が興味のあることに参加できるサークル活動的なものが、家と就労等日中活動以外の場としてあると、生活に彩りや張りが出ると思った
- ・行政が責任をもって支え続ける予算どりとサポート姿勢が必須と考えた
- ・磐田市で居場所づくりの予定があれば、協力したい
- ・子どもの将来、居場所は常に心配事として悩むところで、自分でももっと情報を探していきたいと思った

発達障害のある方の居場所を展開していくための意見 (抜粋)

3/4

- ・支援者の方々が、色々な活動をされていて、とても参考になった
- ・学校では「好き」よりも「やるべき」を優先して教育活動を行なっている節があると思っている。週1時間でも良いので、児童生徒の「好き」を発揮できる時間を作れたら、居場所にもなり得るのではないかと考えた
- ・持ち出し、オールボランティアは継続が難しいことから事業として委託をお願いしたい
- ・幼児期から居場所があるといいなと思った
- ・デイサービスなどを利用している方が多く、保護者も仕事をしているため、親同士が集まる機会がない。その機会をどう作るかが難しいと思った
- ・とてもよい取り組みだと思った。それぞれの発達段階で必要としている部分はある、支えるための人材の確保と場所や物といった資源の活用、必要な経費の収入源など居場所づくりを展開するための運営、システム作りが担当個人レベルだけでは困難と考えた
- ・居場所に適応できずしんどい子もいるので、選択肢の一つとして、本人が行きたい気持ちになることを大切にしたい

発達障害のある方の居場所を展開していくための意見 (抜粋)

4 / 4

- ・趣味の話しから関係性ができた話をうかがい、**ASD**傾向のある人はすべてが不安で支えが見えるまでは緊張してリラックスできないので、愛着形成よりも信頼関係が優先と考えた
- ・老人のデイサービスと同じ場所、空間での共存ができたたら良い
- ・重度訪問介護を使いながら、空き家など利用できたらと考えている
- ・困り感のある子が自分らしく好きを力にかえていける居場所が、金銭的にも気楽に手軽に利用出来たら良いと思う
- ・居場所だけではなく、当事者の一人一人が自分を理解して、相談に応じてくれる人を求めていることもある
- ・高機能系の方については、当事者だけが集まって運営して混乱したり、彼女、彼氏探しのために来る方がいるなど、運営についてはある程度の専門性があり、柔軟な発想で間に立って話のできる人が必要となると考えた
- ・重度の方の場合は、施設やグループホームなど日常的に適切な支援ができる事業所を増やす必要があると考えた
- ・就労への過程、免許や資格取得の為の情報があるといいと思う。居場所も大切だがその先の情報も必要だと思う

- ・ペアレントメンターについて知らなかったため知ることができてよかった。自分の自治体での活動も調べてみようと思った
- ・専門的な知識を持った支援員さんが増えるといいなと思った
- ・国からの指針は大都市中心の体制が多く、地方では展開しにくいことがよくある。いろいろな地域の取り組みを聴けて良かった
- ・自分も先輩保護者に体験談をたくさん聞いた
- ・支援学校出身の子がどんな進路を辿るのか知りたい
- ・いろんなタイプのお子さんがいて、育てたお母さんをマッチングするシステムが素晴らしいと思った。たくさんのペアレントメンターが活躍出来るようになって欲しい
- ・バーンアウトしない取り組みが大切だと思った
- ・これまで支援臭を漂わせていたかもしれないと反省した
- ・子どもを中心にしながらも、家族の存在、生活、思いにも心を向けながら、一緒に考えていきたいと思った
- ・自分の地域でペアレントメンターがどう展開できるか、宿題を頂いた気持ちになった
- ・親の気持ち、親の会の難しさに共感した

- ・ 保護者同士の繋がりが大切なことは分かってはいましたが、そのことの実際の効果を知る事ができ、大変参考になった
- ・ 居場所で好きなことをしても良いと言われても、特にしたいことがない子もいる
- ・ 外に出たいという発達障害の方を集めて趣味などができるところが増えるのはいいと思った
- ・ 人によりニーズが違うため色々な種類の居場所があるといい
- ・ ペアレントメンターという役割について少し誤解があったのですが、正しい情報を知れて良かった
- ・ 答え方のマニュアルなど、息の長い取り組みが必要だ思った
- ・ 親の会で仕事を丸投げされて困ったことがあった
- ・ 熱意のある支援者の方々に負担がかかっていることに心が痛くなった
- ・ 支援者とつながる前に行政の方で道徳的な広報を掲示する必要があると感じた。忘れてしまった道徳、相手も人の親なのだということを気づかせてくれるようなパンフレットを支援者に会わせる前に行政の方で掲示してほしいと思った
- ・ 県内の情報をもっと知りたかった
- ・ 具体的な運用にあたっては、親の会との連携が必要であると思った